

平成20年度地域資源 全国展開プロジェクト  
(事業計画書 ) 詳細版

事業実施者	新得町商工会
-------	--------

**事業名：**「北海地鶏」を活用した特産品開発事業と販路開拓事業

以下の各項目について、特に重要な点を【ポイント】欄に簡潔に記載した上で、詳細の内容をできるかぎり具体的に記載してください。

\*記入欄は、必要に応じて大きさを変更して下さい。

**1. 地域の概要と本事業で活用する地域資源について**

地域の経済構造、現在置かれている環境、課題など、特に本事業に関連する地域経済の状況についてできる限り具体的（統計データや具体的事象を示しつつ）に記載してください。

その上で、本事業で活用する地域資源について、その地域における位置付け（地域産業における重要性、社会・文化面での役割など）を明確にしつつ、上記の地域経済の状況に関連づけながら、できる限り具体的に記載してください。

**【ポイント】**

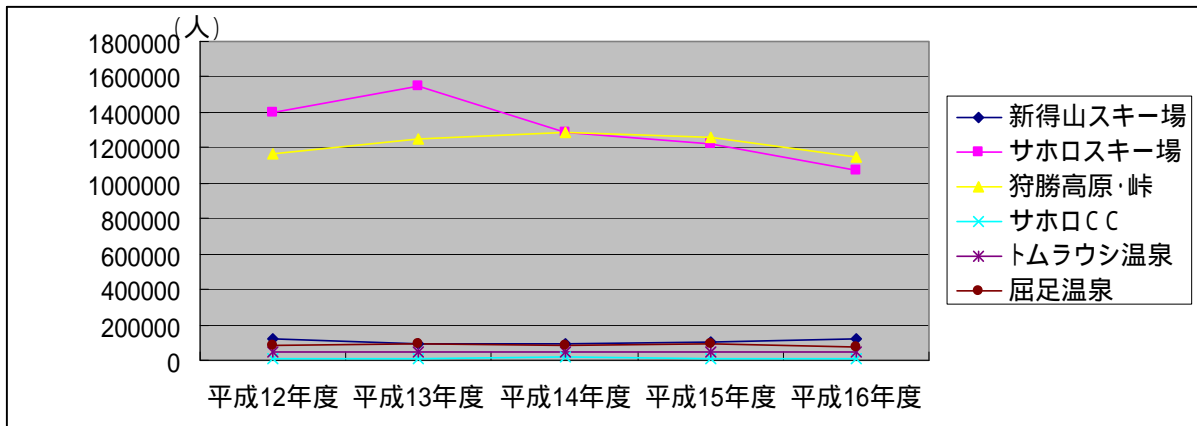
- ・ 新得町を訪れる観光客は年間 100 万人を超えており、「新得そば」を中心とした特産品の提供を行っているが、郷土料理にもなるような素材が不足している。来訪する観光客からは、新得そば、そば焼酎、ナチュラルチーズのほかに「北海道」「しんとく」をイメージする地場特産品、郷土料理等が求められており、「北海地鶏」を使った特産品を開発する。
- ・ 本町に所在の北海道立畜産試験場が開発した「北海地鶏」を使った郷土料理の開発、既存特産品と組み合わせた複合的な土産品の開発など、新たな地場特産品としての定着を目指し、さらには販路開拓に伴う全国展開により地域力の向上・地域振興に寄与していきたい。
- ・ 「北海地鶏」は、「比内地鶏」「名古屋コーチン」と同じ在来種由来血液百分率が100%の地鶏で、試験段階においても肉質・食味ともに協力飲食店から高い評価を得ている。
- ・ 町としても生産・供給の安定化のためと、新たな産業創出を目指し農家、企業等に対し同地鶏の飼養を奨励していくこととしている。

【内容】

地域経済の状況

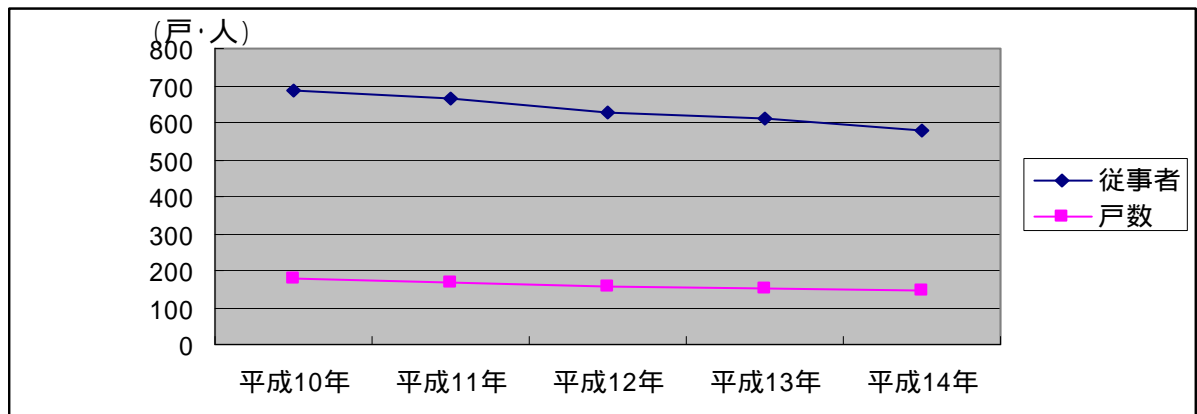
新得町は北海道の中央部、大雪山国立公園の東側に位置し、農業と観光を基幹産業とする町である。古くは豊富な森林資源を背景に農林業を中心とした産業が中心であったが、木材不況・森林資源の枯渇により産業やまちづくりの方向転換を余儀なくされた。パプル期における全国的なリゾート開発ブームで、本町においても大規模開発(サホロリゾート)が行われた。この結果、本町を訪れる観光客は年々増加し日帰り、通過客を含め年間100万人を超える状況に至ったが、現在では景気の低迷などの影響から横ばい状態が続いている。

町内観光地入込数の推移



また、農業を取り巻く環境は、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化が進み、さらには農産物価格が低迷するなか、品目横断的経営安定対策が導入され、新たな対応が迫られている。本町の営農形態は、酪農と畑作を中心に原料作物を中心とした生産体系がとられているが、山麓地帯という地形・気候的ハンデキャップを負っている。

農家戸数・農業従事者数の推移

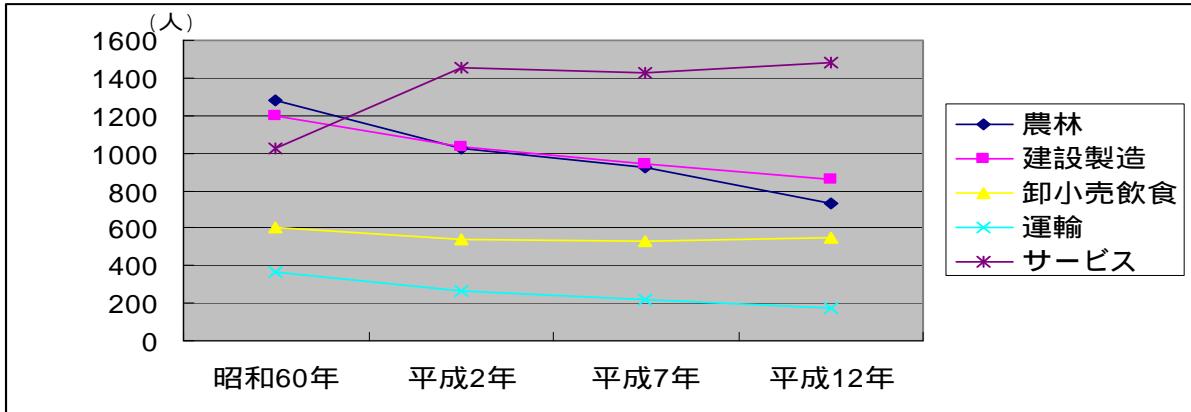


商工業を取り巻く環境も、近隣の大型店、ディスカウント店、専門店で消費購買力が流出し、経営主の高齢化、後継者難により廃業を余儀なくされる店舗が増えるなど厳しい状況にある。また、製造業のウエイトも低く雇用の創出にも深刻な影響を与えている。

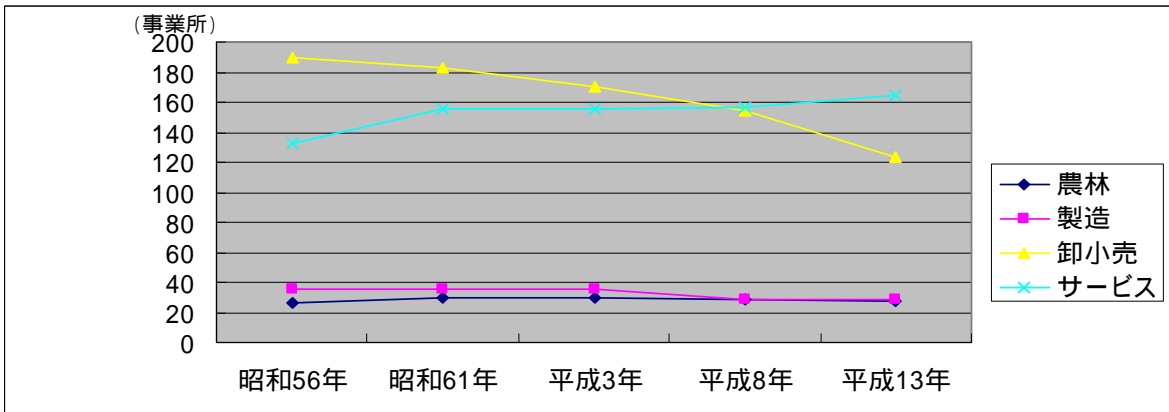
こうした状況下、バランスの取れた産業構造確立をめざし、新たな産業の創出で地域の活性化を促し振興を図っていきたい。

### 新得町の産業構造

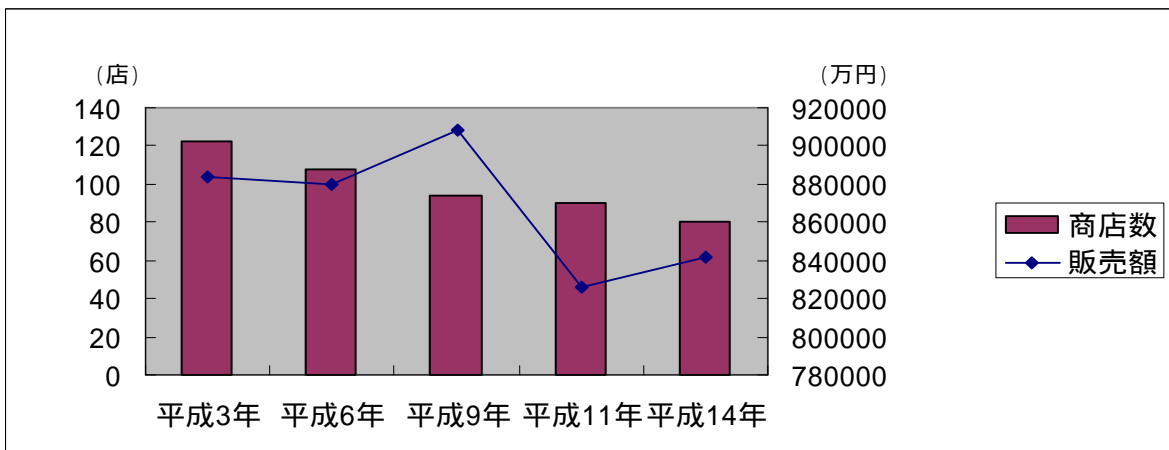
新得町の産業別就業人口



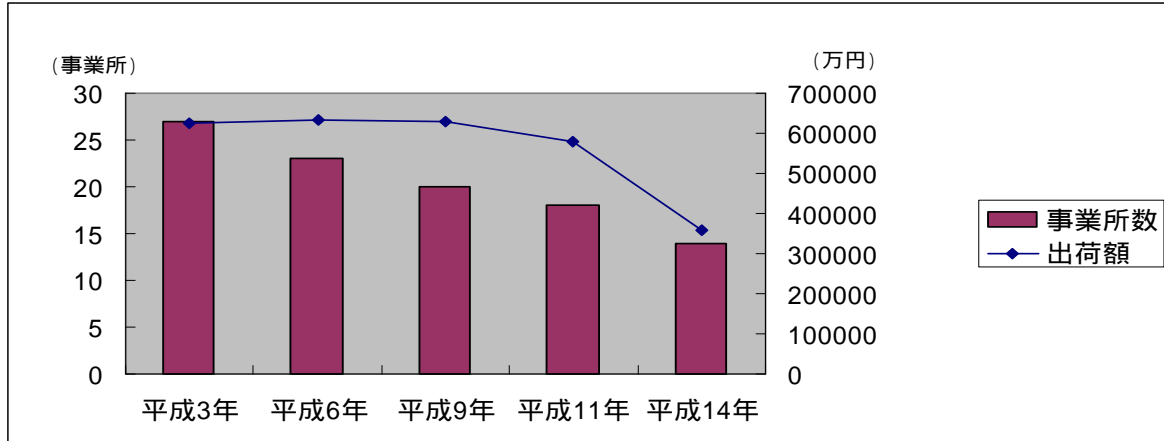
産業分類別事業所数



商業の推移



## 工業の推移



## 活用する地域資源

本町に所在する北海道立畜産試験場は、昭和22年札幌市郊外にあった「北海道農業試験場畜産部」が現在地に移転し、大家畜を中心とした試験研究が行われてきた。平成12年度から道内における道立の試験場統合により新得畜産試験場を道立畜産試験場と改称、大小家畜の集約を行うこととなり、養鶏部門も集約され今日に至っている。集約前に既に「北海地鶏」が開発されており、現在では改良系の「北海地鶏」に進化している。

「北海地鶏」は、在来種由来血液百分率が100パーセントの貴重種であり、近年の食の安心・安全を求める消費者ニーズには十分応えられるものであり、地鶏ブームもあって将来性が大きく期待できるものである。

しかしながら、同地鶏は開発からまもないとあって生産量も少なく地域ブランド形成にはまだまだの状況であり、道立畜産試験場では本年度から地域における生産実証と販売実証を行うこととした。

このことに伴い、当商工会においても産学官連携の下「北海地鶏」を用いた郷土料理の開発や、特産品開発を行い「地域ブランドの形成」と「地域おこし」に繋げていくこととした。また、開発商品の全国展開も模索し国内の販路開拓も行い、新たな特産品の創造と、既にある地域特産品としての「新得そば」や「そば焼酎」などとの組み合わせにより既存商品の更なる知名度向上など相乗効果を求めていく。

「珍しい、美味しい、健康によい地鶏料理、地鶏加工品のまち」として内外にアピールしていくことで地域力の増進、活性化を図っていく。

## 2. これまでの取組について

本年度の事業に関連して、これまで行ってきた地域資源を活用した特産品開発や観光振興などの取組・実績等を記載してください。

その上で、これらの取組から得られた成果、反省点、課題等について、できる限り客観的なデータを用いて具体的に記載してください。

### 【ポイント】

- ・新得特産の「蕎麦」を使ったイベントの開催。
- ・イベント等における蕎麦にちなんだ料理・商品の開発提供。
- ・温泉開発ならびにリゾート開発の取り組み
- ・民間資本による乾麺製造販売の取り組み
- ・第3セクターによる蕎麦焼酎製造の取り組み
- ・淡水魚養殖の取り組み
- ・民間資本による漬物の製造販売事業の取り組み

### 【内容】

#### これまでの取組み

これまで、町内では地場特産物としての地鶏にかかわる取り組みはなされていなかった。

本町の特産物の筆頭は「しんとくそば」で、業界では全国的に評価を得ていたが、玄蕎麦移出が主力であった。その後、地元資本による乾麺製造工場の開業により乾麺移出も隆盛を見るにいたった。平成14年からは、町内の専門店、蕎麦打ち同好会などが出店する「新そばまつり」を開催するところとなり、折からの健康食ブームもあって現在では2万人を集客するイベントに成長、そばまつりでは、「麺」に限らず、蕎麦、そば粉などを使った料理、商品が開発提供されるなど波及効果も生まれ、観光振興に寄与している。

町内における温泉開発は、昭和40年大雪山国立公園トムラウシ温泉に町営国民宿舎が開業し、平成3年にはくったり温泉湯宿レイク・インが開業している。また、狩勝高原地域では、昭和40年代後半からスキー場・ゴルフ場をメインとしたリゾート開発が行われ、リゾート法の制定に伴い地域指定を受け開発整備が進んだ。現在では、日本で初めての地中海クラブのバカンス村や、リゾートホテルが営業、スキー、ゴルフやささまざまな自然体験の提供が可能なりゾートに成長している。

乾麺の製造販売は、原材料としての移出割合が多かった新得そばの付加価値を高め、地域の特産物として展開しようと昭和49年、地元資本による製麺会社が設立され乾麺の製造を開始した。現在では道内屈指のメーカーに成長、風味を生かした独自の製法から消費者の評判を博している。

蕎麦焼酎の製造は、昭和62年、折からの焼酎ブームにより本格焼酎(乙類焼酎)の製造を目指し、九州の雲海酒造の技術指導を受け製造を開始したが、当初製造免許の関係から第3セクターとして経営してきた。しかし、道内における販路が伸びず、雲海酒造に吸収合併の止むなきに至った。現在は北海道発の蕎麦焼酎として製造販売されている。

淡水魚養殖は、昭和40年代に稲作転換に伴う「養鯉」に始まり、「やまべ・虹鱒」を中心とした淡水魚養殖に発展した。内陸部ならではの味を宿泊施設に提供し賞味してもらおうと、漁業生産組合を中心に取組まれていたが、コスト面において折り合わず、生産物の提供はごく一部の宿泊施設にとどまり、現在は、町が建設した狩勝高原淡水魚養殖センターにおいて、やまべ・虹鱒・宝来鱒などの生産と観光釣り堀を行っている。

昭和55年、地元栽培の「野沢菜」を漬物製品の主力にした工場が事業開始、後に地場農産物を主体とした漬物製造工場に発展、製品の出荷先は、道内はもとより本州方面に販路を拡大している。

#### 成果、反省点、課題等

地域では、林業の衰退や農産物価格の低迷など地域をめぐる課題が多いなか、観光立地を目指し各種施策が講じられている。

温泉開発、リゾート開発においては、知名度の浸透とともに来訪客の増加につながってきたが、観光客に満足してもらえる郷土料理は少なく、また、宿泊施設から街中に出での飲食機会も少ない

ことから、飲食店の売り上げ増には結びついていない。地産・地消を推進するためにも地域の特産品を使った郷土料理の研究開発が課題となっている。また、既存の土産品はあるものの、そば、焼酎など重量物が多く、お菓子等お土産品はいずれも町外製造の商品が主流を占めている。

地場産品そば(乾麺)の製造では、付加価値を高め、販路拡大が成功し、地域経済の発展に大きく貢献しているが、他社との競合商品も多く、独創性の高い商品開発が求められている。

蕎麦焼酎の製造では、後発組のため増産まで行かない状態が続いている。他の地場産品とのドッキングにより販売拡大の相乗効果を高める必要がある。

淡水魚養殖は、水産王国北海道にあって需要量の増加は期待できない状況にある。本町には、発電のための人造湖が6か所もあり、うち2湖に町が区画漁業権を設定している。既存の養殖施設の今後は放流魚の孵化育成を中心に運営し、余剰分を販売する方向になるものと思われる。

漬物の製造は、大手製造業者「キョウシヨク」と提携し「キョウシヨク」ブランドにより売り上げを伸ばし、消費者ニーズの高まりもあって地場農産物の付加価値向上に貢献している。

### 3. 本事業に関連する地域の目標及び基本的な方向性について

本年度の事業に関連する地域における中長期的な目標や基本的な方向性について具体的に記載してください(例えば、本年の事業が位置付けられている地域の基本戦略やビジョン等があれば、それとの関連等明確に記載してください)。

#### 【ポイント】

##### ・事業目標

美味しい地鶏の町・地鶏料理の町を目指し産地化、ブランド化を図ることにより、地域における集客力の増加、売り上げ増に結びつけ、産業構造のバランス化と雇用拡大につなげる。

##### ・実現すべき地域経済の姿

- 1) 「北海地鶏」と「新得そば」のコラボレーションにより、新得そばの新しい魅力を創造し集客力を増加させる。＝蕎麦専門店における具財としての使用
- 2) そば乾麺のセットものとして、かしわそば用のレトルト商品の開発＝乾麺製造会社との提携
- 3) 「北海地鶏鍋(仮称)」のメニュー化＝ホテル等の宿泊施設、小料理店・レストランでのメニュー化により、集客力の増加、売り上げ増加、収益性の向上を図る。
- 4) リゾートホテル等における新しいメニュー開発＝「北海地鶏」のブランド化により集客力の増加に繋げる。
- 5) 燻製等の北海地鶏加工品開発＝丸鶏燻製、ささみ・手羽などの部位別に燻製商品化し、新たな土産品とするほか、おつまみとして「そば焼酎」のセット用に使用。

#### 【内容】

##### 本事業の目標及び基本的な方向性

新得町は、農業と観光を基幹産業として位置づけ各種施策を展開してきたが、農業を取り巻く情勢は、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化が進み、さらには農産物価格が低迷するなか、品目横断的経営安定対策が導入され、新たな対応が迫られている。本町の営農形態は、酪農と畑作を中心に原料作物を中心とした生産体系がとられているが、山麓地帯という地形・気候的ハンデキャップを負っている。商工業を取り巻く環境も、近隣的大型店、ディスカウント店、専門店に消費購買力が流出し、経営主の高齢化、後継者難により廃業を余儀なくされる店舗が増えるなど、商店街形成にも影響が出ているほか、本町の農産物は原料作物が中心のため、製造業のウエイトも低く雇用の創出にも深刻な影響を与えている。

このことから、地産地消に照準を合わせた地域ブランドの形成により、町の知名度を上げ観光客の集客力を増加させ、従来なかった食品加工・製造事業を定着させ、バランスの取れた産業構造を確立することを目標とする。

このため、本事業を通して本町農業と観光産業の有機的連携を図り地域振興に資するため、加工製造の技術力を高め販売戦略を練り上げ、商工会が取り組み全体をサポートしていく。

### 地域の基本戦略やビジョン等

消費者のニーズは「安心・安全・本物」であり、極めて健康志向が強いといわれております。

「北海地鶏」は、地元の道立畜産試験場で開発・改良された地鶏で、同試験場では、今年度以降「特別飼育鶏」すなわち抗生物質や抗菌性物質を使わずに飼育する技術と、1平方メートルに1羽という国の基準の10倍もの広さで飼育するという北海道ならではの飼育基準を策定し、まさに消費者のニーズに沿った地鶏生産を行う予定である。

地域の課題は、地域ブランドの形成とバランスの取れた産業構造の確立であり、農業と観光を結びつける地域振興策が求められている。「北海地鶏」は、飼育農家の創出で一次産業の多様化、地鶏製品の加工・製造業の創出は2次産業での新たな進出を招き、地域ブランド化は、3次産業の充実につながり、地域小規模事業者の事業拡大、売り上げの増加、収益性の向上を可能とする。

「珍しい、美味しい、健康によい地鶏料理、地鶏加工品」のまちづくりを地域全体で推進していくことを基本戦略とする。

#### ア) 平成20年度の取り組み

平成20年度は、本事業により「北海地鶏鍋(仮称)」の開発、そば具材用レトルト食品の開発、燻製など加工食品の開発、統一ブランドの構築と情報発信、販路拡大のための調査を行う。さらに、「地域認証制度」の導入を関係機関とともに検討の上構築する。

#### イ) 平成21年度以降は、平成20年度の取り組みを基に、商品力の向上への努力と、地域における理解を高める努力を継続する。

さらに、地域小規模事業者の参画拡大を図り、地域特産物としての定着を目指しながら全国展開を図っていくため、行政機関、観光協会との連携を深め、来訪観光客や全国に向けた情報発信を行う。

また、人気商品等については通販事業にも取り組んでいくものとする。

#### 4. 本年度の事業計画と期待される効果について

上記3.の目標や基本的な方向性の中に位置付けながら、1.及び2.の分析を踏まえて、本年度の事業計画をできる限り詳細かつ具体的に記載してください（注：実施する個別事業及びそれぞれの事業によって期待される効果については下欄に記載してください）。

##### (1) 本年度の事業の目的及び目標

本年度に実施する事業の目的について具体的に記載してください。その際に、本事業を行った結果、実現すべき事項や達成すべき指標等についても記載してください。

##### 【ポイント】

###### 特産品開発事業

- 1) 地鶏料理の開発、地鶏加工品の開発
- 2) 開発に向けた技術向上のための研修、講習会の開催

###### 販売力強化事業

- 1) 「認証制度」の確立
- 2) 商品発表会、試食会の開催。
- 3) マーケトリサーチの実施

###### 情報発信事業

- 1) 都市圏でのPR活動
- 2) ホームページ、マスコミ等を通じたPR活動

##### 【内容】

###### 本年度の事業計画

###### 特産品開発

- ・「北海地鶏鍋（仮称）」の開発
- ・そば具材用レトルト品の開発
- ・燻製等の加工品開発
- ・地鶏料理のコンテスト開催

###### 販売力強化事業

- ・販売力強化のための試食会、マーケトリサーチの実施
- ・認証制度の取り組み
- ・商品モニター制度の導入
- ・統一ブランド・マークの作成

###### 情報発信事業

- ・情報発信ツールの整備
- ・マスコミを通じたPR活動

###### 期待される効果

安心・安全・本物をキャッチフレーズに、「珍しい、美味しい、健康によい地鶏料理」として地域ブランド化することにより従来の観光客の行動パターンを変化させ、宿泊施設以外の飲食店や、お土産店での集客増、売り上げ増が図られるほか、既存特産品とのコラボレーションにより既存特産品においても販売増などの相乗効果が期待できる。

域内においては、加工・製造等の分野において雇用の増加が見込まれるほか、新規開業も見込まれ地域内活力の増加が期待できる。

食の安全・安心面からも、地域全体が消費者ニーズに応えることにより地域の認知度が高まり、地域おこしが活発化することが期待できる。

##### (2) 具体的事業計画の内容

上記(1)の目標を踏まえたうえでの本事業の進め方（ターゲットとする市場やユーザーなども念頭に）を、具体的に記載してください。



この際、事業の新規性や独創性などもできる限り具体的な根拠（データ等）を用いて説明してください。

**【ポイント】**

**本事業の進め方**

それぞれの分野の事業参加者が、計画・実行・評価・改善に繰り返し参画することにより、特産品開発、販売戦略、情報発信の高度化を目指していく。

**新規性や独自性**

「北海地鶏」は開発後まもないため、現在北海道内で40,000羽程度の飼育（生産）しかなく、道立畜産試験場では本年度から増産のための生産実証、販売実証にとりかかることになった。試験場所在地として、試験場の進める研究とタイアップし、全国に誇る地鶏生産地を目指したい。そのためにも、これら生産物の消流対策の確立は必要であり、来訪観光客の多い当地域において特産化することにより所期の目的は増幅されると思われる。

**【内容】**

**本事業の進め方**

専門家等の指導助言の下、新事業全国展開特別委員会を軸に、特産品開発部会、販路開拓部会において、繰り返し研究・試作・評価・改善を行い、開発商品の品質向上に努め、本事業の完成度を高めていく。

**新規性や独自性**

国内各地で「地鶏」と称されるものは多いが、「北海地鶏」は、「比内地鶏」「名古屋コーチン」と同じ在来種由来血液百分率が100パーセントの地鶏であり、飼育方法も「北海道方式」とも言うべき放牧飼育や抗生物質や抗菌性物質を使わない飼育方法を取り入れた「特別飼育鶏」であり、国内においても産地間競争を有利に進めることができる銘柄鶏といえる。

この貴重な鶏肉を利用した特産物開発は広く消費者のニーズに応えることができるものと確信する。

**【個別事業ごとの内容】**

本計画で明確になった事業内容について、どのような事業を、こういった内容で、いつ、いくら位の予算で実施するか、という予定を具体的に記載してください。

事業項目	事業内容	実施時期	期待される効果
特産品開発	・レトルトそば具財開発	7月～10月	メニュー開発、新商品開発による事業機会の拡大
	・燻製等加工品開発	7月～2月	
	・北海地鶏鍋（仮称）	8月～2月	
研修事業	試作	11月	メニュー開発、品質向上
	・地鶏料理コンテスト 参加事業者の研修会、 専門家招聘による技術 研修会	6月～2月	
情報発信&販路 開拓	・北海地鶏 CI 戦略の 構築	9月～12月	北海地鶏 の知名度アップ。 メニュー・商品の評価。 都市部への PR・商品評価。
	・試食会の開催	10月～12月	
	・都市部における販促 対策	11月～2月	

調査事業	・統一パッケージデザイン、ブランドマークの決定製作	9月～12月	商品イメージの定着化
	・認証制度の実行	9月～12月	
推進体制	・マーケティングリサーチ	10月～2月	品質クォリティの確立 販売戦略の構築
	専門家を含めた推進体制の構築	5月～7月	それぞれの立場での責任分担で、事業成功に向けての推進体制

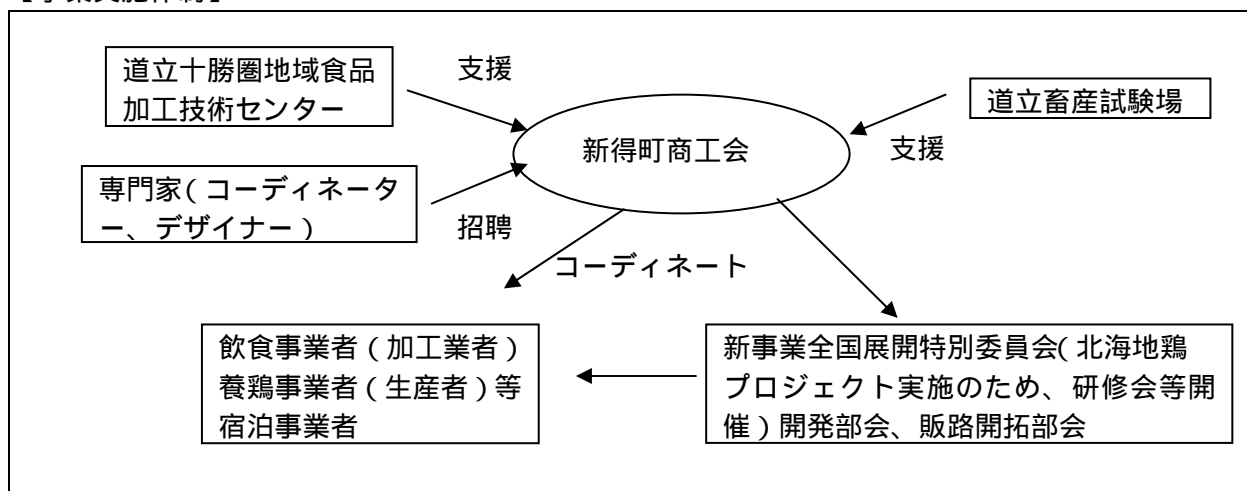
## 5. 事業実施体制

本事業における組織体制の概要を図示して下さい。

この際、設置する委員会、参画する事業者、関係者(自治体等)、招聘する専門家、市場調査・試作品開発等委託先の関係と各々に期待される役割等を図を用いて具体的に説明して下さい。) なお、プロジェクト参加予定者の詳細については下記6.に記載してください。

また、本年度の事業の成果等を評価し、今後の事業全体の進め方を検討する仕組みについてもできる限り記載してください。

### 【事業実施体制】



### 【事業成果の評価、事業全体の進め方の検討】

商工会、行政からなる評価委員会を設置し、事業達成度の検証をおこなうとともに、次年度以降の計画、中長期的な計画の策定を行い地域特産品としての定着を図る。

## 6. プロジェクト参加予定者

### (1) 想定される専門家

氏名	所属・役職	専門分野	役割・選定理由等
関川 三男	帯広畜産大学 地域共同研究センター センター長	産学官連携 コーディネーター	地域における指導実績が豊富
長橋 敦	北海道十勝支庁 産業振興部長	地域における産業振興	行政における指導実績が豊富
小関 忠雄	道立畜産試験場 家畜研究部長	北海地鶏の 開発研究	飼養・加工についての 助言・指導実績が豊富
原 仁	同 技術普及部次長		
藤川 朗	同 中小家畜飼養科長		
国重 享子	同 同 研究職員		
只野 正博	北海道商工会連合会 地域振興部長	地域振興	組織における指導実績が豊富
津呂 真一	同 十勝支所長	組織運営指導	
大庭 潔	道立十勝圏地域食品 加工技術センター 研究開発課長	加工食品等の 研究開発アドバイザー	加工食品開発に関する実績が豊富
星沢 幸子	星沢クッキングスタジオ 主宰	料理研究家 創作料理	料理に関する知識が豊富で、話題性が高い

### (2) 想定される委員会委員

氏名	所属・役職	専門分野	役割・選定理由等
長谷川 貢一	新得町農林課長	農業振興	行政との連携
畑中 栄和	新得町商工観光課長	商工観光振興	行政との連携
柴田 信昭	新得町観光協会長	観光振興	観光事業の推進
武田 昌孝	新得町農協営農部長	農畜産物の生産販売	原材料等供給
清水 輝男	新得町商工会総務委員長	商工会委員会	地場産業育成業務等
伊藤 仁浩	新得町商工会青年部長	商工会組織	広報担当
斉藤 美代子	新得町商工会女性部長	商工会組織	試作担当
今井 崇敬	新得料飲店組合長	料飲店組織	普及担当

### (3) 想定される参画事業者等

氏名	事業所名等	役職	業種	従業員数
上田 隆史	(株)上田精肉店	専務取締役	精肉小売業	2
武田 直幸	(株)新得モータースクール	代表取締役	養鶏業	9
深川 文雄	(株)トムラ登山学校 レイク・イン	取締役総支配人	宿泊施設	5
太田 和洋	(株)新得観光振興公社	総支配人	国民宿舎経営	7
奥山 陽二	(有)薬草温泉 ホテルかりかち	代表取締役	宿泊施設	0
安田 昌行	加森観光(株) サホ口事業部	総支配人	リゾート施設	75

斉藤 武	(株)マルサ斉藤商店	代表取締役	食品小売業	2
三浦 宏之	(有)みうら	代表取締役	食品小売業	1
板垣 敬一	山正 板垣商店	代表	食品小売業	0
竹浦 隆	(有)沢井商店	代表取締役	食品小売業	0
今井 崇敬	(有)今井商事	代表取締役	飲食店	3
関口 新治	(有)関口地下食堂	代表取締役	飲食店	1
千葉 俊男	新得そばの館(株)	代表取締役	飲食店	5
熊谷 護	暖笑	代表	飲食店	0
児玉 浩己	食堂 勤吉匠	代表	飲食店	2
吉田 滋	石松すし	代表	飲食店	1
坂田 秀夫	げんや	代表	飲食店	0
岡田 久雄	ドライブイン大雪園	代表	飲食店	1
御幸 知秀	居酒屋 蔵	代表	飲食店	0
小松 和男	ドライブイン松の実	代表	飲食店	1
宮崎 金蔵	居酒屋 菊翠	代表	飲食店	0
森 雅裕	居酒屋 もり	代表	飲食店	0
番場 清	居酒屋 番屋	代表	飲食店	0
森 純子	金酔	代表	飲食店	0

必要に応じて記入欄を増やしてください。

「地域資源 全国展開プロジェクト」 支出内訳書

\* 事業計画を実施するための予算を記載してください。 (事業実施者：新得町商工会)

項目	補助事業に要する経費	内 容
1. 委員会開催費	438,000	
委員謝金	100,000	委員会委員にかかる謝金
委員旅費	300,000	委員会委員にかかる費用弁償
会議費	28,000	会議時のお茶代
会場借料	10,000	会議室借料
2. 専門家招聘費等	447,000	
謝金	400,000	専門家招聘にかかる謝金
旅費	47,000	専門家の招聘にかかる旅費
3. 調査費	880,000	
調査旅費	450,000	市場調査、先進地調査にかかる旅費
調査実施費	200,000	アンケート調査にかかる印刷費等
調査委託費	200,000	市場調査委託費
知的財産権等調査費	30,000	調査にかかる旅費等
4. 試作品開発費	3,000,000	地鶏購入 906,000 試作研究委託 1,000,000 デザイン料他 1,000,000 その他 94,000
5. 展示会・イベント費	1,100,000	
展示会等開催費	800,000	会場費、借損料、会場設営費、搬送費等
展示会等出展費	200,000	出展料、輸送費、人件費等
委託費	100,000	出展業務委託費
6. 広報費	900,000	
広告媒体等作成費	200,000	PR ビデオ作成、HP 構成経費
パンフレット等作成費	700,000	チラシ、パンフレット、ポスター等制作費
新聞・雑誌等掲載費	100,000	新聞、雑誌広告代
7. 報告書等作成費	500,000	
原稿料	150,000	報告書作成用原稿料
印刷製本費	350,000	報告書作成にかかる印刷費
8. 事務費	761,000	
消耗品費	120,000	コピー用紙、事務用品等購入費
資料費	60,000	参考図書購入費
借損料	100,000	事務機等リース代
通信運搬費	100,000	郵券代、宅配便代等
雑役務費	331,000	アルバイト賃金等
その他	50,000	保険料、手数料等
合 計	8,026,000	

新事業に係わる経費に限ります。  
国内を対象とした事業に限ります。  
物販に係わる事業経費は対象外となります。